

宝酒造 緑字企業報告書 ステークホルダーミーティング

「緑字決算報告書」から「緑字企業報告書」へリニューアルして3年。
宝酒造は、ステークホルダーの方々のご意見やご要望を伺い、
CSR活動のさらなる深化に努めていきたいと考えています。
京都CSR研究会の方々にお集まりいただき、現報告書の評価と合わせてお伺いしました。



TaKaRaの意志に共感できる コミュニケーションツール

藤野様:表紙の子供さんのいきいきした笑顔を通じて、TaKaRaの自然や社会に対する姿勢が伝わってきますね。
喜井様:社員の声を数多く反映させている点も透明性があり、評価できます。TaKaRaの社風も感じられますし。
奥谷様:どんな環境でどんな人がどう製品をつくっているかがわかりやすく、消費者として安心感があります。企業側からの一方的な報告や情報発信ではなく、ステークホルダーに共感されるコミュニケーションツールになっていますね。

ネガティブな情報の分析と対応策を

島本様:情報をどれだけ開示できるかが企業の信頼性や誠実性を高めるとは思います。活用が進んでいない介護体職制度など他社では出しにくいデータを明示されている点を高く評価します。ただ、なぜそうなるのかという分析や、どうすれば改善できるのかという対応策の記述がありません。
藤野様:同感です。例えばヘルプラインの現状報告もほしいところですね。さらに欲を言えば、一方的な情報開示にしない工

夫も必要ではないでしょうか。第三者意見に対するフィードバックもその一つ。いただいた意見に対する見解や、どう対応したのかを報告すると、より企業の透明性が高まると思います。
奥谷様:環境目標の達成状況に関しても、未達成の場合はその後どのように改善に取り組んだかが報告されていませんね。
喜井様:企業としてどう対応したか、が大切だと思いますね。もしも問題があった場合には、問題解決にいたるステップを明確にし、できるだけ早く開示することが望ましいと思います。

「生き生きとした社会づくり」に明確なビジョンを

島本様:トップのコミットメントでCSRに対する意欲への高まりが感じられますが、報告書の環境・社会・経済のバランスを見ると社会面の要素が不足しています。企業理念に掲げられている「生き生きとした社会づくり」を具体的に描き、方針を定めて活動していくことが重要です。
藤野様:環境目標と同様、社会性の到達目標も設定するべきですね。
喜井様:コンプライアンスや人権問題などについてどう捉え、どう取り組んでいるかも具体的に示してほしいと思います。

〈京都CSR研究会〉

「京都発のCSR」を実践的に広げることを目的に、2003年発足。京都におけるCSRの実践例を学び、経営戦略への取り組み方や異なるステークホルダーとの協業方法などを研究している。企業、NPO、行政、大学、マスメディアなど幅広い分野に在籍する個人が自由に参加し、月例会を開いている。



京都文教大学
人間学部
現代社会学科 教授
島本 晴一郎様



特定非営利活動法人
きょうとNPOセンター
チーフ事業コーディネーター
藤野 正弘様



オムロン株式会社
企業文化統括センタ
長き企業市民推進部長
喜井 哲夫様



京都橋大学大学院
文化政策学研究所
博士課程
奥谷 三穂様

ステークホルダーミーティングの概要

- 開催日時:2007年6月14日(木) 18:30~20:30
- 場所:宝酒造本社
- 内容:
1.宝酒造からのご挨拶
2.参加者自己紹介
3.宝酒造から報告書についての説明
4.ディスカッション
(1)報告書を読んだ感想(良い点、悪い点)
(2)社会から信頼される企業であるために期待すること
- 参加者:京都CSR研究会 4名
宝酒造 6名[環境部門3名、人事部門1名、品質保証部門1名、
ビジネスサポートセンター1名]
- 司会:筑紫 透(株)ゼネラル・プレス サステナビリティ・コミュニケーション
事業本部 プロデュース部 企画調査室 主任研究員/シニアプランナー

ステークホルダーからの提言

- 京都らしい、TaKaRaらしい、CSR調達の構築
宝酒造の企業理念にある「生き生きとした社会づくり」をもっと具体的に掘り下げ、目標を設定して取り組んでほしい。京都の企業の代表として、欧米に匹敵するCSR調達(調達条件に企業倫理や労働条件、環境、地域社会などへの配慮を加えたもの)を構築してほしい。企業理念や行動基準を具体化した経営戦略が求められる。
- 開示情報の分析や対応策の報告
目標が必ずしも達成されるとは限らない。企業の透明性や誠実性を保つためにも、目標が達成できなかった問題に対して、どのように分析し対応したかを報告されることが望まれる。
- ステークホルダーとのコミュニケーションの強化
お客様や株主様、取引先、行政だけでなく、地域住民や大学生などにも積極的に参加への呼びかけを。幅広いコミュニケーション活動を通じて、宝酒造の企業活動を理解していただくとともに、さまざまなステークホルダーのご意見やご要望を反映させていくことがCSR推進につながる。

社会とのコミュニケーションの場を拡げて

島本様:私はこの報告書を大学の講義で資料として使わせてもらっていますが、TaKaRaのCSRをより発展させるためにも、報告書活用を場を広げることが望ましいと思います。
藤野様:学生の関心は非常に高いので、インターネットのソーシャルネットワークサービス(SNS)などを活用するのも一つの方法です。
奥谷様:緑字決算の重み付け投票のように、インターネットを介して、大学生や地域住民にも参加していただくシステムをもっと広げられてはどうでしょう。
喜井様:ボランティア活動やハーモニストファンドの助成先の方々とコミュニケーションの場を設けるなど、接点はいろいろあると思います。

京都らしい、TaKaRaらしいCSR経営を

喜井様:宝酒造の製品は、消費者＝社会に非常に近い存在です。企業理念に従って、自然との調和、人間の健康的な暮らし、生き生きとした社会づくりへと、その役割をさらに広げて取り組んでいただきたいと思います。
藤野様:対象をサプライチェーンにまで広げ、取引先と協働したCSRの実行を期待しています。これからも京都を代表する

企業として、CSRを積極的に活かした経営をお願いします。
奥谷様:京都人には、自然の中で生かされているという思想があります。自然資源を原料にされる宝酒造には、その文化を次代へ伝えていく使命があると思います。
島本様:誤解のないように付け加えておきますが、TaKaRaの報告書は現状、大変高い水準にあります。今回私たちが述べた意見は、さらに上をめざしてもらうためのもの。環境に対する取り組みや分析は非常によくなされているので、それを社会にも広げてもらいたい。「環境のTaKaRa」だけでなく「市民のTaKaRa」になることを期待します。
.....
大変貴重なご意見をありがとうございました。CSR活動は、ステークホルダーの皆様との対話や協働なくして成し得ることはできません。皆様のご意見やご要望は今後の指針として反映し、地元の京都をはじめ、社会、日本になくてはならない企業であり続けるために、皆様のご期待にお応えできますよう、決意を新たに全社一丸となって取り組んでまいります。

宝酒造株式会社
環境広報部長 佐藤 浩史